

# 安養寺

十一面観世音菩薩立像を本尊に構える安養寺。門前には2.5メートルに及ぶひととき大きな三宅安兵衛の石碑が立ち、「引上げ奉る観世音尊像、弥陀次郎堯門大居士 安養寺」と刻まれている。「弥陀次郎縁起」(安養寺蔵)によると、前非を悔いて仏門に帰依するようになった弥陀次郎が、夢告により淀川の神の木の淵から一体の観音菩薩像を引き上げたという。その像が本尊の十一面観世音菩薩立像と伝えられ、種々の伝説に包まれている。春祭りに行われる「東一口の双盤念仏」は、府登録無形民俗文化財。所在地/東一口112

# 旧山田家住宅

山田家はかつての巨椋池漁業権の総帥であり、このあたりの村をとりまとめる大庄屋でもあった。江戸後期築といわれる建物には、長屋門、意匠を凝らした欄間、京狩野鶴沢派の襖絵などがある。主屋、長屋門、長塀は、国登録有形文化財。所在地/東一口35 開館日/毎月第1木曜日、第2土曜日、第3日曜日 開館時間/9時~正午 入館料/200円/1人

# 豊吉稲荷神社

安養寺の門前を右に曲がり、古集落の面影が残る小道を50メートルほど行くと、左手に豊吉稲荷大明神を祀る小さな社殿がある。太田姫稲荷神社縁起(東京都 太田姫稲荷神社蔵)によると、太田道灌の最愛の姫が重い痲瘡にかかり、苦しんでいたところ、京の一口に祀られている一口稲荷神社が痲瘡に靈験あらたかなことを知り、急使をつかわしてこの神に祈願した。幾日も経ずして使者が祈祷の弊を捧げて帰ってくると、さしもの重かった病氣も日毎に快方に向かい、痲瘡が全治したという。所在地/東一口105

# 西一口の道標

西一口の宇治川左岸堤防下にぼつりと立つ石碑がある。船渡しがあったこの場所には、安養寺に続く道標として立ち、正面に「淀川渡船所 淀京阪電車」とある。この道標は京阪淀駅前を起点に、船渡し



久御山の文化と歴史をめぐるモデルコースA  
御牧エリア  
約5.1km  
ウォーキング 約100分  
サイクリング 約40分

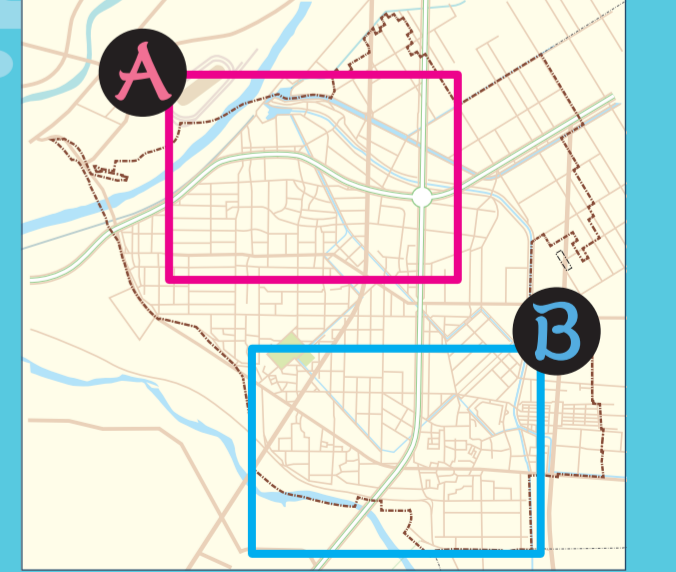
START & GOAL  
まちの駅 クロスピアくみやま  
近鉄京都線「大久保」駅または京阪本線「中書島」駅から京都京阪バス

## くみやま文化・歴史ガイド 久御山

おすすめウォーキング&サイクリングコース

久御山町

- 久御山町へのアクセス**
  - 車 京滋バイパス「久御山淀IC」すぐ 大阪方面から、第二京阪道路「久御山南IC」すぐ
  - 公共交通 近鉄京都線「大久保」駅、京阪本線「中書島」駅または「淀」駅から京都京阪バス
- レンタサイクル**
  - 貸出・返却場所 まちの駅クロスピアくみやま
  - 営業：9時~17時
  - 定休日：月曜日(祝日の場合翌日) 年末年始
  - 料金：200円/回
  - \*小学生以下は保護者同伴



【問い合わせ】  
久御山町事業建設部産業課  
TEL. 075-631-9964, 0774-45-3914 FAX. 075-631-6149  
URL. http://www.town.kumiyama.lg.jp  
MAIL. sangyo@town.kumiyama.lg.jp  
発行. 平成30年(2018年)3月  
改訂. 平成31年(2019年)2月(第二版)  
制作協力. くみやま文化・歴史勉強会「久御山アカデミー」  
西川理史

対岸(現在の淀中学校)からこの西一口に続き、安養寺へと案内している。

# 華台寺

寛仁3年(1019年)妙法上人の開基と伝える華台寺は、九品山往生院と号し、寺伝によれば中世末から近世初期にかけて御牧3か寺の一つに数えられ、天台宗寺院として皇室の帰依も深かったという。門前には三宅安兵衛の石碑が立ち、「阿彌陀如来尊像 華台寺」とある。その横には、「すく(「真っ直ぐ」の意)久記ぬき地藏道」と書かれた石碑があり、これは中島の釘貫から移築した地藏堂を指している。地藏堂は明治初年に廃寺となった法雲庵の本堂をそのまま移築したもの(大正10年に一部修復)で、本尊である地藏菩薩立像は、もろもろの苦しみを抜き取るというところから

「苦抜地藏」と呼ばれ、近郷近在の人々に広く信仰されていた。所在地/中島法楽寺16

# 御牧の道標

みまきこどもえん分園の正門近くに、「平安朝御牧馬寮故址」と書かれた石碑がある。「御牧」の地名は、皇室の牧場に由来したものであると考えられている。牧の位置については、現在確定することはできないが、この付近は木津川の旧流路にあたり、牧の名を示す遺跡地名も残っていない。むしろ、旧木津川の西、馬場崎野・馬場崎・馬島の地名が残る藤和田から北川顔、美豆(京都市伏見区)の辺りに求めるのが妥当と考えられる。昭和3年(1928年)三宅安兵衛の息子、清次郎がこの碑をこの場所に建立したのは、この地が旧御牧村の行政の中心地であったことによるものと思われる。

# ちょっと立ち寄り

## 1 五田神社

奈良朝の元明天皇(708年-715年)の勅願により建立されたと伝えられる五田神社は、古くから方除けの守り神として信仰されている。境内には2つの石碑があるが、「基壇」の積み方が特徴的で、東側が「切込み接ぎ」、西側が「野面積み」に似せた意匠になっている。集落の石垣の基壇も、方角でそれに似せたようになっているところが多く、神社と関わりが深いこの集落の信仰的側面かもしれない。本殿や石鳥居など、国登録有形文化財。所在地/森宮東1

## 2 光明寺

「光明皇后祈願所舊跡 薬師如来尊像 光明寺」という碑を門前に構える光明寺は、光明皇后の開基と伝えられる。明治の初めまで現在の御牧小学校の敷地に建立されており、薬師如来坐像を本尊としている。脇侍に日光・月光菩薩立像と十二神将のうち四神将が内陣に安置されている。寺伝によると、もともと十二神将が揃って祀られていたが、応仁の乱の戦火で堂宇が炎上し、火災の中を運び出せたのが日光・月光と四神将だけで本尊薬師如来坐像と八神将は焼失してしまったという。所在地/相島野口32

# 1 称名寺



日野の里(伏見区日野)から移安されたと伝える称名寺の本尊、木造阿弥陀如来坐像は、町有形文化財に指定されている。縦の一材ですべてを彫出し、内削りも見られない古様な構造で、平安時代後期(10世紀末)ごろの京都周辺の地方作と位置づけられている。

明治初年に廃寺となった法蓮寺の旧仏、木造薬師如来坐像(国指定重要文化財)、東明寺の旧仏、大日如来坐像もまた、本堂内に安置されている。

山門には三宅安兵衛の石碑があり、「大日如来尊像稱名寺」とある。

所在地/佐古内屋敷25

# 2 雙栗神社



雙栗神社は明治以前まで「榎本八幡宮」と呼ばれていて、江戸時代後期に刊行された京都に関する地誌である「都名所図会」

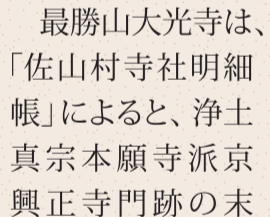
にもその名で登場し、「大久保の西の方二十町ばかり佐山村の林の中にあり。」と記述されている。

境内にある三宅安兵衛の石碑には、「御厨池舊跡」と記されている。

本殿等は国指定重要文化財、拜殿等は国登録有形文化財である。

所在地/佐山双栗55

# 3 大光寺



最勝山大光寺は、「佐山村寺社明細帳」によると、浄土真宗本願寺派京興正寺門跡の末

寺で、永正元年(1504年)浄土真宗寺院として、僧良意が開基したことがわかる。

山門前には三宅安兵衛の石碑が立ち、本堂内陣の中心にある阿弥陀如来坐像を表わすかのように、「阿弥陀如来尊像 大光寺」と記されている。

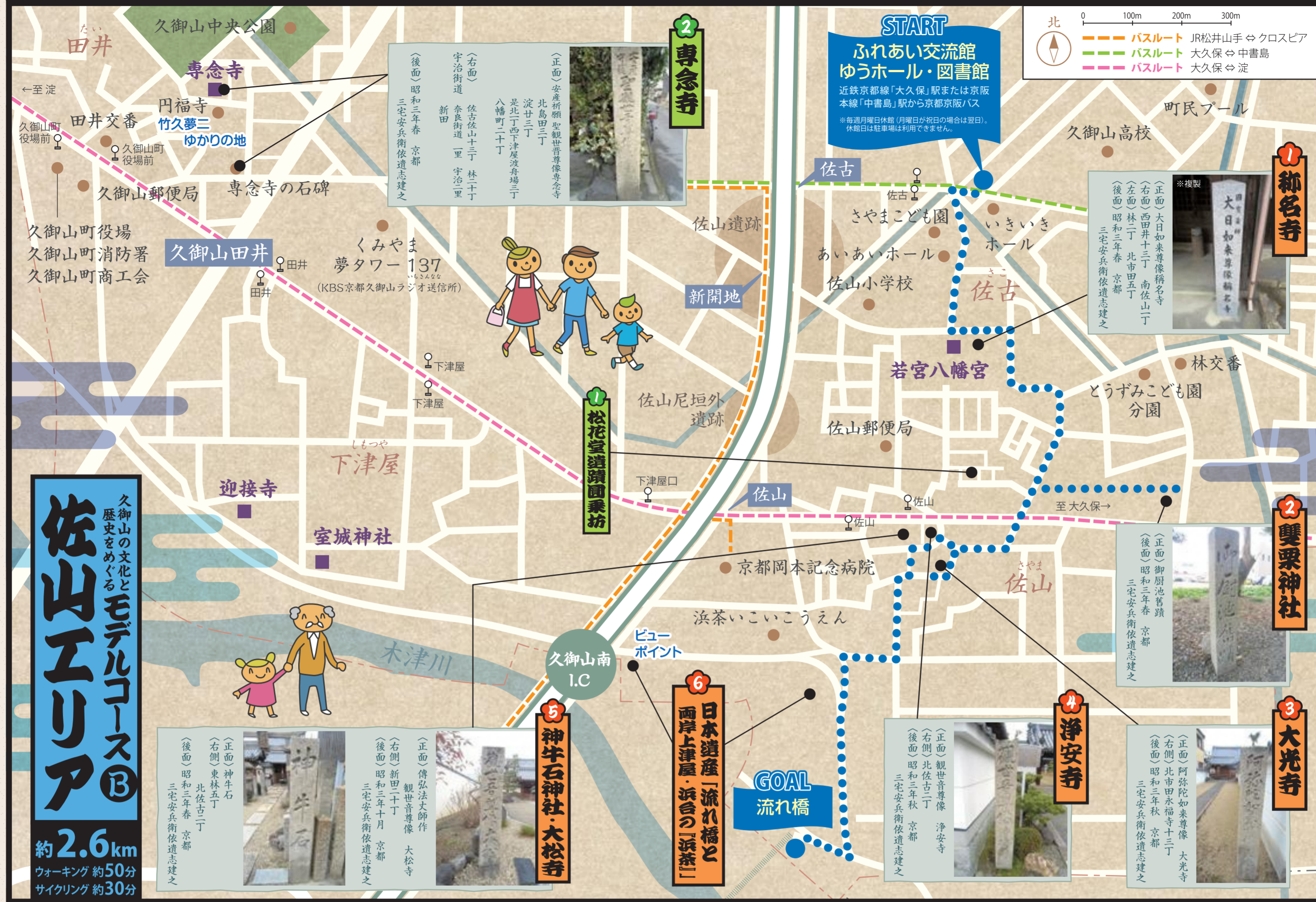
所在地/佐山栗ノ脇24

# 4 浄安寺



山門の石碑に「観世音尊像 浄安寺」と記されたこのお寺は、「椿寺」としても有名で、境内一円には老木・若木を含め200種を超える椿がある。

椿の品種は、「佐助」と名付けられた茶花用の種類が多いが、その中でも浄安寺佐助と命名された品種は、門外不出の絶品とされている。こ



**佐山エリア**  
久御山の文化と歴史をめぐるモデルコース  
約2.6km  
ウォーキング 約50分  
サイクリング 約30分

これらの椿は、毎年2月中旬から4月中旬にかけて、本堂を会場に催されている「椿展」で鑑賞することができる。開花の順に全国の陶器の里から収集された一輪挿しに生けられ、副木をあしらって30数点が展示される。

境内の北側には浄福寺観音堂があり、本尊の木造聖観音菩薩立像は町指定有形文化財である。

所在地/佐山双置80  
椿展: 期間/2月中旬~4月中旬  
拝観料/無料 予約不要

# 5 神牛石神社・大松寺

金縛りの観音とも呼ばれる聖観音菩薩立像を本尊に祀る大松寺。その門前右側、20坪程の境内地に神牛石神社が鎮座し、牛がうずくまる形をした黒色

の大きな石をご神体に祀っている。石碑はそれぞれ、「傳弘法丈師作 観世音尊像 大松寺」、「神牛石」と記されている。

所在地/佐山双置64-1

# 6 日本遺産「流れ橋と西岸上津屋・浜台の「浜茶」

長大な木製の「流れ橋」がつながる木津川の両岸は砂地の豊かな土壌で、その河川敷に広がる茶園(上津屋、浜台)は、特に「浜茶」と呼ばれている。

佐山浜台には、木津川堤防の内側に茶園が広がり、町内の茶業家が伝統を受け継いで、高級茶である碾茶(抹茶の原料)を生産している。古い歴史を誇るこの茶園では、遠望に流れ橋、手前に広がる茶畑の風景が、のどかな日本の原風景を彷彿とさせる。

所在地/佐山浜台地先

# 久御山町の紹介

久御山町は、昭和29年10月1日に久世郡の御牧村と佐山村が合併して誕生した。町名は公募で、「久」世郡の「御」牧村・佐「山」村を合成したものである。

## 巨椋池

町の北東部には、かつて巨椋池(古くは「大池」と呼ばれる)という巨大な湖沼が存在していた。宇治川、木津川、桂川の三大河川が合流し、周囲16km、面積約800haに及ぶ広さであった。巨椋池をめぐる人間との関わりは石器、古墳時代までさかのぼることができ、町内でも遺跡が発掘されている。古文書、史書によれば、652年に淀川洪水を記して以来、山城を襲った大洪水は百数十回を数える。石で積んだ高い基壇など洪水に備える名残は今も街並みのあるところに見られ、水害に関心があることがうかがえる。

昭和16年、国営第1号の干拓事業によって、巨椋池は一大優良農地帯として生まれ変わったが、池が存在した当時は漁業が盛んであった。東一口の旧山田家住宅の重厚な門構えは、巨椋池漁業者のとりまとめ役を務めた往時の繁栄をしのぼせる。少し瓦が膨らんだ「むくり屋根」や縦張りの家は、「漁家」の名残かもしれない。

## 「幻」の鉄道計画

池の存在は鉄道計画にも大きく影響しており、当然ながら現在の鉄道はこれを避けるように敷かれている。久御山町にも戦前、佐山村を通る鉄道計画があったが、国の認可直後に起こった世界恐慌や、続く大戦の影響を受け、計画は無期限延期、いつしか立ち消えとなった。しかし、戦後、車社会の到来を迎え、国道1号をはじめとする広域幹線道路網が整備され、その立地条件を生かした活発な産業活動とともに町は発展してきた。もしも鉄道計画が実現していたら、違った現在があったかもしれない。

## 巨椋池排水機場 「巨椋池まるごと格納庫」

巨椋池排水機場横にある「巨椋池まるごと格納庫」では、歴史絵巻や解説映像、立体地理模型などで様々なことを学ぶことができる。  
所在地/京都市伏見区向島下五反田地先  
開館時間/10時~16時  
入館料/無料 休館日/無休

## 三宅安兵衛・石碑について

明治時代、三宅安兵衛という資産家があった。福井県に生まれた彼は京都に出て財をなし、息子の清次郎に、お世話になった京都のために使うよう資産を遺して亡くなった。清次郎は、父が生前、旅行した際に案内表示が少ないうことを残念がっていたことを思い、大正10年から昭和5年の10年間に、史跡・旧跡など合計400か所に道標のための石碑を建立したのである。久御山町には全部で12基の石碑が確認されている。そのほとんどが昭和3年の建立であるが、損傷等により近年に一新されていたり、元の位置から移設されているものも見受けられる。

## ちょっと立ち寄り

### 1 松花堂遺蹟圓乗坊

住宅地の一角に建立された小さな祠に、三体の石仏が祀られ、「松花堂遺蹟圓乗坊」と記された石碑がある。正応元年(1288年)如一上人が再興し、数々の沿革を伝える松花堂遺蹟圓乗坊は、佐山双置に広大な境内地を有し、その最盛期には300石を領有していた。しかし、時の流れと共に田畑は失われ、広大な境内地は住居と化し、かつてこの地に千年の歴史を秘める圓乗坊があったことは、寺標でしか知るすべはない。

所在地/佐山双置90

### 2 専念寺

中世から近世初頭にかけて御牧郷を支配した御牧一族と所縁の深い寺院である専念寺には、「観世音縁起」が伝承されており、安産に靈驗あらたかな観音尊像であると伝えられている。それを表すかのように、少し離れたところに立つ三宅安兵衛の石碑には、「安産祈願 聖観世音尊像専念寺」と記されている。

寺宝である絹本着色阿弥陀三尊来迎図は、町指定有形文化財。  
所在地/田井荒見33